

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2012年4月30日】

団体名 NPO 法人みたか街かど自立センター

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

地域に元気を！！

—プロジェクト—障がいのある方々が地域で活動し、暮らしていくための体験宿泊室等の事業—

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

現在は家族と一緒に暮らしている方々でも家族の高齢化等で介助力が低下し、いずれは今とは違う生活が求められる時が来ます。今は自分らしい生活とはどんな暮らしなのだろうと意識することはなくても潜在的には誰もそんな可能性を秘めているのではないのでしょうか。それは障がいがあってもなくても同じことだと思います。そこで、宿泊体験等を通して地域社会で自分なりの暮らしを創っていくことを学んでいただくこと、そしてそこで培った力でグループホーム、一人暮らし等の地域生活を切り開いていただくことを目的とします。そのことによって家族の方々の精神的、身体的な負担軽減もできます。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

- ① 利用希望者を募り、ピアのコーディネーターとの相談、利用契約を行い、ホームヘルパー派遣事業等を活用しながら体験宿泊、場合によっては日帰り体験を行いました。
- ② 振り返りを十分に行い、本人、家族の今後の生活のニーズを深く聞き取り、継続して関係機関との協力のもと本人が望む地域生活の在り様を実現させていくヒントが生まれました。
- ③ 宿泊体験室の実践を生かして、重度身体障害者グループホーム設立の可能性を追求していききました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

この体験宿泊事業の状況、成果を市民、行政、不動産業者、体験宿泊室を長年運営されている他団体等を対象に関係団体との連携のもと、シンポジウムを開催しました。障がいのある方々も地域で暮らしていくことの実際をPRし、理解を求めることができました。そこから誰でもが繋がりがあって暮らしていける地域社会の新たな仕組み作りを模索していける効果が期待できました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

- ① 宿泊については、センター、ぽっぷの一人暮らしをしている当事者に協力をいただいた。自立体験室の使い具合を体験していただき、新たな備品の購入、改良点を指摘していただき、自立に向けての利用しやすい体験室を目指してきました。今後、いろんな方々に利用していただける環境整備ができたことがよかったです。
- ② 日帰りについては、入浴利用の方1名、調理実習の方1名です。入浴は褥瘡を治療中の方で家庭での入浴がなかなかできない中、第4土曜日に取り組んできました。
- 課題としては、浴槽が深く利用しづらいので、業者の方と相談して手すりを取り付けてみましたが解決には至りませんでした。現在は2ℓペットボトルに水を入れて、4本を2列8本にして浴槽の底に敷き、その上にマットをのせ、マットの四隅を吸盤で押さえて利用していただいています。これで入りやすくなりましたが、マットが不安定です。今後も改善していかなくてはなりません。そこで、新年度はバリアフリーの浴槽と交換することを決めました。それによって利用者増を目指していきます。
- 調理実習は一人暮らしに向け、ヘルパーの利用の仕方について学んでいただき、一步自立生活に踏み出しました。このように一人一人の自分なりの自立(自律)生活をイメージしていただけるよう取り組みを進め、この自立生活体験室の役割を実践的に深めることができました。この実績を平成24年度も延ばし、平成25年度には、重度身体障害者グループホーム内にこの自立生活体験室を移設できるよう取り組んでいく見通しができてきました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

自立生活体験室ってなあに？

今は家族と一緒に暮らしていたり、生活施設で住んでいる方もいると思います。

でもそんなあなたも地域で一人暮らしをしてみたい、グループホームで住んでみたいと思ったことはありませんか。

そんな自分らしい暮らしを作っていきたいと思うあなたの希望・夢をサポートするところが自立体験室です。

炊事・洗濯・掃除・入浴・買物など生活技術をヘルパー派遣を活用して学んでいきます。

また、家族とちょっと離れてひとやすみ・リフレッシュしたい方もご利用いただけます。

あなたも暮らすことに自信がもてるようになっていきましょう。

利用するにはどうしたらいいの？

- ① まずはみたか街かど自立センター、または障がい者生活支援センターインみたかにご連絡ください。自立生活体験室の日帰り、または宿泊の利用などご希望を伝えてください。(連絡先は裏表紙をご覧ください。)
- ② そして利用にあたっての体験室の見学、面接をコーディネーターと行います。その時にあなたの現在の生活の様子などをお聞かせいただき、体験日の日程調整、利用にあたっての利用料金などの決まりごとをお話しします。

あなたも街かど自立センターの仲間になりませんか。

私たちみたか街かど自立センターでは、障がい者が地域の中で、より快適により自由に生活・社会参加している障がい者支援グループです。私たちは、個々の障がい者ニーズに合わせた対応を目指し、当事者ならではのやり方でサポートしています。私たちと一緒に自分たちに合った自立について考え、笑顔の絶えない人生を切り開いてみませんか。

見学もできます！ 一度きてみてください！

街かどのメンバーになると自立生活体験室が利用しやすくなります。

体験室の運営にご協力ください！！

この自立生活体験室は、先駆的事業で制度としては位置づけられておらず、法人の独自事業で運営を行っています。

そのため資金面では大変で、市民の皆様に寄付の呼びかけをさせていただいています。

ぜひ、ご支援、ご協力をお願いいたします。

入金は、郵便振替にてお願いいたします。

郵便振替 口座記号番号 00170 0 631499

「NPO法人みたか街かど自立センター」